

Cruise People File 1

大自然と乗客の キューピッド役

シルバーシー・クルーズ
探検船「プリンス・アルベールII」

エクスペディション・ディレクター
コンラッド・コンブリック氏



「ビシッと決まったスーツ姿から、ちよっぴり照れたような笑みがこぼれた。「船上ではいつもアウトドア仕様の格好が多いから……」と語る今回のストーリーの主人公は、探検船のエクスペディション・ディレクターであるコンラッド・コンブリック氏。

そもそも、エクスペディション・ディレクターとは、クルーズの、それも特別なクルーズにしか存在しないユニークな職業だ。彼が乗船しているのは、南極、北極など極地クルーズを中心に行う、探検船「プリンス・アルベールII」。

同船の極地クルーズでは寄港地観光が代金に含まれているが、例えば南極ではどこの地に上陸し、どのくらい滞在するかなどのプログラムを決定し、運営するのが彼の役目だ。寄港地に着けば先に上陸して下見をしたり、ときには新たな探検先の開拓もしたりする。いわば「大自然と乗客のキューピッド役」。

「思いますね」。

南アフリカはケープタウン出身。観光経営学を学び、「プリンス・アルベールII」の前身である「ワールド・ディスカバラー」の時代から、10年以上探検クルーズに関わってきた。スマートな外見とは裏腹に、タフな環境下での経験は数知れない。とはいえ、極地だからこそ、例えば天候が悪くなるなどのアクシデントもあるのでは？ とちよっぴりいじわるな質問を投げてみた。

「そう、天気は僕らも変えられないんです。だからこそ悪天候で上陸できなかった場合でも、それを上回るような充実した船内プログラムと、シルバーシー・クルーズらしいラグジュアリーなサービスを用意しています。『天気が悪かったけど、この船で良かった』と思ってもらえるように」。彼から「天気が悪くて残念でしたね……」となぐさめられれば、まあそんなこともあるさという気になるだろう。自然と人間をつなぐキューピッド役は、どこか温かなオーラを発している。次はスーツ姿でない、船上の彼を見てみたい。

1 普段の彼はアウトドア・ファッションが基本。北極・南極クルーズ同行は数知れない 2 南極・北極など極地クルーズを中心に運航している「プリンス・アルベールII」 3 極地クルーズではゾディアックで上陸する機会も多い。彼らがいるから乗客は安心だ

